



診察室における言葉の玉手箱 ～第2回～

川崎幸クリニック院長
杉山 孝博

2. 一生の割り当てを飲みきった

「血液検査の結果は、GOT 56(基準値10～40) GPT 78 (基準値5～35)γGTP 126(基準値男16～84、女12～48)でした。また、ウイルス性肝炎の指標であるHBs抗原、HCV抗体はいずれも陰性でした。γGTPが最もよく変化して、GOTよりGPTが高い場合が多いのがアルコール性肝炎の特徴ですから、あなたは、典型的なアルコール性肝炎ですね。禁酒しなければなりません」

「先生、簡単にはできませんよ。少しくらいはよいでしょう」

「肝機能が一旦悪くなりますと、少量のアルコールを飲んでも肝機能はすぐ悪化します。肝機能が悪くなった人は、『**アルコールの一生の割り当てを飲みきった人**』であると考えましょう。割り当てを飲みきっているのですから、今飲んでいるとしたら、それは人の割り当てを奪っているか、あるいは毒の水を飲んでいることになります。ですから、罰が下るのを覚悟して飲んでくださいね」

3. めまいがあっても理解があれば不安でなくなる

「いろいろ必要な検査をしましたから、軽いめまいがあっても心配はありません」

「でも、先生、めまいがまだ時々しますし、ひどいめまいがいつ起こるか心配です」

「あまり気にしないほうがよいですよ。めまいそのものよりも、気にしすぎるほうが問題ですよ。」

たとえば、からだを10回ほど回転させて急に止まったら、立ってられないほどのめまいが起こりますね。そのとき、めまいでびっくりして救急車を呼んだり、病院に駆け込んだりしませんね。それは、からだを回転した後めまいするのは当然であり、しばらくすればめまいがなくなることがわかっているからです。

つまり、**めまいがあっても理解があれば不安でなくなる**のです。

あなたの場合は、大きな病気はないと思いますので、心配しないで下さい」

